

平成 29 年 5 月 22 日現在

機関番号：84603

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26244012

研究課題名(和文)春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Study of the Development of Faith in Native Deities and Its Artifacts, Focusing chiefly on the Kasuga Faith in Nara

研究代表者

湯山 賢一 (Yuyama, Ken'ichi)

独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他部局等・館長

研究者番号：00300690

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 20,300,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、これまでに奈良国立博物館が展示し、または研究資料として蓄積してきた春日信仰関係遺品の再調査、あるいは海外美術館所蔵や個人蔵などの形で埋もれたままの未発掘資料の掘り起こし等を通じて、この分野の研究を新たな段階へ進展させるものである。具体的には、信仰が生み出した春日東西塔などの建築遺構、神鏡をはじめとする工芸品、宮曼荼羅をはじめとする絵画、あるいは神像彫刻など、考古学や美術史学の見地に基づいた具体的な造形物を調査した。その成果として、毎年冬に特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」を開催し、最終年度には、国内をはじめアメリカ・イギリスなどでの関係遺品の調査成果を含む報告書を刊行した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this survey is to develop studies in this field by reinvestigation of cultural properties related to the Kasuga Faith which were exhibited or collected as resources for historical study by Nara National Museum and by investigating such items which are from private collections and foreign museums' collections. We investigated remains of buildings including the East and West Pagoda for Kasuga, decorative arts including divine mirrors, paintings including Miya mandalas and sculptures of Shinto deities which were created with the faith based on knowledge on art history and archaeology. As an outcome of this survey, we held the Feature Exhibition "On-Matsuri and the Sacred Art of Kasuga" every winter and on the final fiscal-year we published the research report based on the investigation into the items related to the faith which were conducted in Japan and foreign countries including USA and UK.

研究分野：美術史

キーワード：春日信仰 春日東西塔 春日曼荼羅 神像 おん祭 海獣葡萄鏡

1. 研究開始当初の背景

奈良国立博物館は、奈良という地の利を生かした文化財の調査とそれに基づく研究、そしてその成果を展示して普及に供する仕事をおこなっている。本研究のテーマの一つに掲げた春日信仰は、当館がこれまで様々な展覧会でテーマに掲げてきたものであり、特に近年は毎年「おん祭と春日信仰の美術」を開催し、研究成果を着実に展示に生かしている。一方で、当館の活動は、展示に向けた調査研究という特性から、個別遺品の研究に力を傾注しがちであり、類似の遺品全体を系統的に調べ上げ、大局に立った立論をするという側面が弱い。この点を克服するため、春日大社の式年造替を目前に控えた平成 26 年(2014)より、関連遺品を網羅的に調査し、また情報収集し、総合的な研究をおこなった上で、展示公開に繋げる計画を立てた。

当館では、3 回前の春日大社式年造替があった昭和 30 年(1955)に、特別展「春日大社遷宮記念名宝展」を開催し、その当時における春日信仰美術の研究水準の到達点を示して以来、昭和 53 年(1978)の特別陳列「春日曼荼羅」、前回の式年造替にあたる平成 7 年(1995)の特別陳列「春日大社名宝展」、平成 9 年の特別陳列「春日信仰の美術」などを開催してきた。また、春日信仰のみが対象ではないが、平成 17 年の特別展「神仏習合」や平成 24 年の特別展「解脱上人貞慶」も、このテーマに大きく関わる成果として挙げられる。そして平成 18 年からは、先述の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」を毎年開催し、現在に至っている。

2. 研究の目的

こうした長年にわたる展示活動を受けて、本研究では、これまでに当館が展示し、または写真資料として蓄積した春日信仰関係遺品の再調査、あるいは当館に調書はないが既に世に知られている資料の調査、そして海外美術館所蔵や個人蔵などの形で埋もれたままの未発掘資料の掘り起こし、以上の作業を通じて文化財情報の網羅的・系統的なデータ集積をおこない、新たな研究段階へと進ませようと計画した。具体的には、春日信仰の研究において近年成果を上げている国文学や日本史学、民俗学など、文字資料を対象とする研究を大いに踏まえつつ、信仰が生み出した春日東西塔などの建築遺構、神鏡をはじめとする工芸品、宮曼荼羅をはじめとする絵画、あるいは神像彫刻など、考古学や美術史学の見地に基づいた具体的な造形物を対象とする調査と研究を推進し、そこで得られた新知見を広く公開することを目指した。

3. 研究の方法

春日信仰あるいは南都の神祇信仰の遺品と一口に言っても、様々な材質・形状のものがある。当館は日常の研究活動において、文化財を品質形状によって分類し、彫刻・絵

画・工芸・考古・書跡のそれぞれの分野に担当者を置いている。本研究においても、この組織とチームワークを生かし、各資料の調査をおこなう方針を立てた。

4. 研究成果

(1) 初年度(平成 26 年度)には、次年度以降の本格的な研究に向けた準備として文化財所在情報を収集するとともに、文化財の現地調査を順次実施し始めた。彫刻では、8 月にアメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス市の州立美術館において神像彫刻等 14 件を調査した。絵画では、当館に所在する春日曼荼羅を中心に調査を実施するとともに、次年度以降の海外調査に向けて文化財の所在確認に努めた。工芸では、舍利厨子や春日一宮信仰の遺品、春日大社伝来の神宝、春日大社造替関係資料を調査するとともに、引き続き関連遺品の情報収集をおこなった。考古では春日大社境内出土の古瓦、築地遺構の出土瓦・土師器、御蓋山麓出土の須恵器を調査するとともに、春日東西塔跡出土品の整理に着手した。書跡では、春日社式年造替関係の未紹介資料について、断簡の復原研究を実施した。以上の調査および研究の成果の多くは、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術【特集】威儀物 神前のかざり」において公開し、展示と同時に刊行した図録にも掲載した。

(2) 第二年度(平成 27 年度)には、本格的な現地調査に取り組んだ。絵画では、春日曼荼羅の研究に関わって、6 月にイギリスのイーストアングリア大学と大英博物館において春日鹿曼荼羅、春日社寺曼荼羅、春日地蔵曼荼羅等の日本仏画を調査した。工芸では、根津美術館所蔵の春日若宮社経及び厨子を調査した。神鏡に関する研究では、春日大社末社金龍社の御神体である禽獣葡萄鏡を 3D 計測し、また香取神宮(千葉県香取市)において、同神宮所蔵の海獣葡萄鏡を 3D 計測した。考古では、前年度より開始した春日東西塔跡出土品の整理を進め、総目録の作成に向けて写真撮影を継続した。以上のうち、特に春日曼荼羅に関する成果は、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術【特集】御旅所」に反映させた。

(3) 最終年度(平成 28 年度)には、以下に掲げるいくつかのテーマから春日信仰にアプローチした。絵画では、徳川美術館所蔵の春日南円堂曼荼羅・鹿島立神影図、静嘉堂文庫美術館所蔵の春日本迹曼荼羅・春日鹿曼荼羅等、根津美術館所蔵の春日宮曼荼羅・春日補陀落山曼荼羅等を現地調査したほか、アメリカ合衆国に 4 名を派遣し、ブルックリン美術館・メトロポリタン美術館・アジアソサエティ・クリーブランド美術館において春日信仰等に関わる所蔵絵画を調査し、あわせて彫刻も調査を実施した。書跡では、京都大学附属図書館が所蔵する江戸時代の春日若宮祭

に関わる資料を調査した。考古では、前年度より継続で春日東西塔跡出土品を整理し、報告書に向けた準備を進めた。以上の調査成果の一部は、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 特集 奈良奉行所のかかわり」に反映させた。

(4) 以上述べてきた 3 年間の蓄積を踏まえ、その中から新知見の検出、未発掘資料の掘り起こしといった点で成果のあったものを取り上げ、報告書として平成 29 年 3 月に刊行した。その目次は次のとおりである。

- ・アメリカ・ロサンゼルス州立美術館所蔵の日本彫刻
- ・京都大学附属図書館所蔵「奈良与力橋本家律令雑記」に含まれる春日若宮おん祭関連史料の調査
- ・在外春日曼荼羅調査報告
- ・春日東西塔院跡出土の軒瓦
- ・春日大社（奈良）と香取神宮（千葉）の海獣葡萄鏡の調査

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 9 件)

・吉澤悟、正倉院南倉の銀壺について、正倉院紀要、39 号、査読無、2017、pp.1-26

・岩田茂樹、白鳳彫刻二題、鹿園雑集、17・18 号、査読無、2017、pp.1-22

・岩田茂樹・岩井共二・鳥越俊行・山口隆介・大江克己ほか、奈良・法華寺文殊菩薩騎獅像、鹿園雑集、17・18 号、査読無、2017、pp.23-38

・北澤菜月、新所蔵の「最勝曼荼羅」について、鹿園雑集、17・18 号、査読無、2017、pp.39-49

〔学会発表〕(計 10 件)

・野尻忠、明治維新と廃仏毀釈、特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」、2016 年 7 月 18 日、九州国立博物館（福岡県太宰府市）

・岩田茂樹、東大寺・僧形八幡神像の再検討、奈良女子大学古代学学術研究センター月例研究会、2015 年 6 月 3 日、奈良女子大学（奈良県奈良市）

・清水健、垂迹する聖地 中世日本の補陀落山表象の諸様態を例として、科学研究費基盤研究(B)「東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態」第 3 回ワークショップ、2015 年 12 月 23 日、京都大学人文科学研究所（京都府京都市）

・齋木涼子、東大寺僧の伊勢神宮参詣 その歴史的背景、東大寺要録研究会、2015 年 9 月 20 日、東大寺総合文化センター（奈良県奈良

市）

・内藤栄、正倉院宝物にみる百済文化、第 7 回百済文化国際シンポジウム、2014 年 12 月 6 日、奈良教育大学（奈良県奈良市）

・吉澤悟、考古学よりみた奈良時代の仏への祈り、プレ戦略イニシアティブ「日本語日本文化発信力強化研究拠点形成」祈りプロジェクト第 3 回ワークショップ、2015 年 2 月 27 日、筑波大学（茨城県つくば市）

・野尻忠、写経遺品からみる宝亀初年の一切経書写と正倉院文書、人間文化研究機構連携研究「正倉院文書の高度情報化研究」研究会、2014 年 7 月 31 日、国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）

・山口隆介、東大寺僧形八幡神像と手搔会、東大寺要録研究会、2014 年 9 月 20 日、東大寺総合文化センター会議室 A

〔図書〕(計 19 件)

岩田茂樹・齋木涼子・谷口耕生・北澤菜月・山口隆介・伊藤久美・吉澤悟・中川あや、奈良国立博物館、春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究、2017、128

・岩井共二・岩田茂樹・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・野尻忠・山口隆介・吉澤悟・岩戸晶子ほか、奈良国立博物館・読売新聞社、国宝信貴山縁起絵巻、2016、250

・湯山賢一・野尻忠ほか、奈良国立博物館、和紙 近代和紙の誕生、2016、13

・岩井共二・岩田茂樹・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・内藤栄・野尻忠・山口隆介・吉澤悟ほか、奈良国立博物館ほか、忍性救済に捧げた生涯、2016、294

・岩井共二・岩田茂樹・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・内藤栄・野尻忠・山口隆介・吉澤悟ほか、奈良国立博物館、第 68 回正倉院展目録、2016、136

・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・野尻忠ほか、一般財団法人仏教美術協会、おん祭と春日信仰の美術 特集 奈良奉行所とのかかわり、2016、80

・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・野尻忠・山口隆介・吉澤悟ほか、奈良国立博物館、伊豆山神社の歴史と美術、2016、64

・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・野尻忠・吉澤悟ほか、奈良国立博物館、まほろしの久能寺経に出会う 平安古経展、2015、174

・岩井共二・岩田茂樹・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・内藤栄・野尻忠・山口隆介・吉澤悟・岩戸晶子ほか、奈良国立博物館ほか、白鳳 花ひらく仏教美術、2015、300

・岩井共二・岩田茂樹・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・内藤栄・野尻忠・山口隆介・吉澤悟・岩戸晶子ほか、奈良国立博物館、第67回正倉院展目録、2015、144

・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・内藤栄・野尻忠・山口隆介・吉澤悟ほか、一般財団法人仏教美術協会、おん祭と春日信仰の美術 特集 御旅所、2015、80

・湯山賢一・齋木涼子・谷口耕生・野尻忠・宮崎幹子ほか、奈良国立博物館、和紙 文化財を支える日本の紙、2015、22

・岩井共二・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・内藤栄・野尻忠・吉澤悟・岩戸晶子ほか、奈良国立博物館、お水取り、2015、72

・北澤菜月・谷口耕生ほか、奈良国立博物館・東京文化財研究所（思文閣出版発売）、大徳寺伝来五百羅漢図、2014、312

・岩井共二・岩田茂樹・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・内藤栄・野尻忠・山口隆介ほか、奈良国立博物館・日本経済新聞社、国宝 醍醐寺のすべて、2014、328

・岩井共二・岩田茂樹・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・内藤栄・野尻忠・山口隆介・吉澤悟・岩戸晶子ほか、奈良国立博物館、第66回正倉院展目録、2014、152

・北澤菜月・齋木涼子・清水健・谷口耕生・内藤栄・野尻忠・吉澤悟ほか、一般財団法人仏教美術協会、おん祭と春日信仰の美術【特集】威儀物 神前のかざり、2014、80

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

湯山 賢一 (YUYAMA, Ken'ichi)

奈良国立博物館・館長

研究者番号：00300690

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

岩井 共二 (IWAJ, Tomoji)

奈良国立博物館・学芸部・室長

研究者番号：50646213

岩田 茂樹 (IWATA, Shigeki)

奈良国立博物館・学芸部・上席研究員

研究者番号：20321622

北澤 菜月 (KITAZAWA, Natsuki)

奈良国立博物館・学芸部・研究員

研究者番号：10545700

齋木 涼子 (SAIKI, Ryoko)

奈良国立博物館・学芸部・研究員

研究者番号：90530634

清水 健 (SHIMIZU, Ken)

奈良国立博物館・学芸部・室長

研究者番号：80393370

谷口 耕生 (TANIGUCHI, Kosei)

奈良国立博物館・学芸部・室長

研究者番号：80343002

内藤 栄 (NAITO, Sakae)

奈良国立博物館・学芸部・部長

研究者番号：40290928

野尻 忠 (NOJIRI, Tadashi)

奈良国立博物館・学芸部・室長

研究者番号：10372179

宮崎 幹子 (MIYAZAKI, Motoko)

奈良国立博物館・学芸部・室長

研究者番号：50290929

山口 隆介 (YAMAGUCHI, Ryusuke)

奈良国立博物館・学芸部・研究員

研究者番号：10623556

吉澤 悟 (YOSHIZAWA, Satoru)

奈良国立博物館・学芸部・室長

研究者番号：50393369

岩戸 晶子 (IWATO, Akiko)

奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員

(4) 研究協力者

()